

# ケアマネの部屋

発行日：平成20年10月31日 (No. 3)

発行元：浜松市介護支援専門員連絡協議会

E-Mail : hamamatu-kaigo-me@freeml.com

## 会長挨拶

### 来春の改定に期待を



会長 岡崎 博

北京オリンピックの後、急速に世界、日本の情勢が変化しています。サブプライム問題から発した米国の金融関係の業績悪化や景気の落ち込み等世界経済に影響を与えていますし、日本では汚染米等に象徴される食の安全が問われていますし、医療・年金等の社会保障も先行き不安です。介護関係も年々給付費が増加するという理由で改定の度に介護報酬は押さえられて来ました。その結果介護の世界から人材から抜けていくと言った事態が生じ問題となっています。

この6月に「平成19年度介護事業経営概況調査結果」が公表されましたが、平成16年度の報告に比べ各事業所の人件費率は軒並み上昇しており、収支差率は大幅に悪化しています。特に居宅介護支援事業所の落ち込みはひどく、人件比率は100.4%で、収支率は▲15.8%と大幅な赤字となっています。

この事については平成18年度の改正で担当件数が35件になった事や介護予防支援の導入等が上げられていますが、このままでは事業経営が成り立って行く訳がありません。来春には報酬改定がありますが、報酬を上げると保険料も上がると言われたジレンマもあります。しかし、このままでは益々介護の世界から人材がいなくなり、サービスも大幅に低下するのは目に見えています。財源がないといっても特別会計には250兆円も使われています。一部を削ってでも社会保障費に回すべきですし、特に介護保険の要とされているケアマネが事業経営として成り立つ制度・報酬を期待したいと思います。

## 新支部長挨拶



北区支部長 野末真弓美  
介護老人保健施設 花平ケアセンター

こんにちは、今年度より支部長を交代いたしました。北区は、旧浜松市の北部と旧引佐郡(三ヶ日町、細江町、引佐町)にて構成され、高齢化率22%の地域です。

先日ケアマネ更新研修を受講させて頂きました。最後の2日間は主にグループワークで、利用者様の全体像の捕らえ方、プランの検討、サービス調整会議のロールプレイとグループでの活動でした。

この研修を通し、私とは違う考え方や取り組み方を知り、私の概念の杭が少し緩みました。この様に楽しく学ぶ事ができる研修が、北区でも実現できると良いと考えています。

## 平成20年度通常総会から

### 大震災、そのときケアマネは・・・

研修委員長 松井順子

平成20年6月14日(土)に総会に引き続き、全体研修会を「大震災、そのときケアマネは・・・」と題して、新潟県小千谷市の在宅介護支援センター春風堂の伊佐恵子さんを講師にお招きし、開催しました。東海沖地震が来ると言われ続けて、数十年、かえって意識が薄れている感じがある中、当日早朝、岩手・宮城内陸地震が発生し、伊佐講師の話が大変身近なことであり、いつ、どこで地震が発生するかわからない、明日かも知れない・・・いつ発生してもいいように準備をしておかなければという思いを再確認させられました。

特に、伊佐講師自らも被災者でありながら、利用者の消息を“會って確認”する大変さや、緊急のサービス調整(今まで利用していた事業所も同じように被災しており利用できず、遠方で利用した事がない事業所との連絡など)、大震災という非常事態であっても、介護保険の制度に基づいて申請～認定が必要であることなど実際に体験したご苦労や日頃からのサービス事業所との連携がいかにか、

非常時に生きてくるかなどを話していただきました。そして、おわりに「ケアマネジャーは特別なことをしたのではなく援助を必要としている人にふさわしい社会資源を結びつけたことだと思う。被災時であってもケアマネジャーの仕事の原則は変わらない」ということが心に残りました。



平成20年度浜松市介護支援専門員連絡協議会  
通常総会・講演 一会場風景一

## コラム・こらむ・コラム・こらむ



栗倉 敏貴=如庵  
ジョアン社会福祉士事務所  
居宅介護支援事業所

### 「食べものと宗教文化」

20年ほど前に、以前の勤務先で海外研修に参加する機会に恵まれ、先輩職員2人と一緒に米国の高齢者施設5か所を見学してきました。

そのとき印象に残った施設の中に、ユダヤ教信徒の人たちの専用施設がありました。

ユダヤ教の戒律は旧約聖書の時代から定められており、日常の食べ物について、鳥獣の肉や魚介類の中でも、食べて良いものといけないものが厳しく規定されています。この規律のことを「コシェル」と呼び、保守派の信徒たちはみなこのような食事を当たり前のように実践しています。私たちが訪問した施設においても「コシェル」の食事方式を守る人たちのためのメニューが用意されており、ユダヤ教の司祭である「ラビ」が常駐して、信徒たちを指導していました。なかなか日本では見られない風景であり、興味深く説明を聞いてきました。

いま、私は社会福祉士の職能団体で、福祉サービス第三者評価に従事しています。保育所の評価やコーディネートに行ったとき、在住外国人の家庭の子どもが通園している保育園で、宗教によって食べてはいけないものを除去した食事を用意しているのを見て、職員や地域の人たちが、子どもたちを通して文化の違いを理解する良い機会だと思いました。高齢者についても、外国人市民の定住化が進むことで、今後は異文化の人たちが介護を受ける場面も増えてくるでしょう。私たちが、そのような環境に対応していけるような専門職でありたいものです。

(如庵)

## 事業所紹介

### 独居男性を支えていくのは・・・

社会福祉法人千寿会  
みさくぼの里ケアセンター  
守屋 奈美代

遠州の北の果ての水窪町内唯一の特養に併設した居宅介護支援事業所です。包括支援センターさんや近隣の居宅や施設さんの支援を受けてなんとか成り立っている状態です。

この町でケアマネをしていて以前から思うのですが「今後、独居男性を支えていくのはヘルパーなのか？」ということです。失礼ながら水窪では独身男性が多いことと、また亭主閑白で家事をしたことがないという頑固な高齢者が多い傾向にあります。そういう方の同居していた母親や妻が、亡くなったり家事ができなくなったときに、徐々に生活困難が生じてきます。買い物に行ける状態なら良いのですが、しばらくすると家事ができなくて困ったという娘や妹さんからの依頼が入ってきます。身体機能上「できない」ではなく「やりたくない」からヘルパーを使いたい、特養に入居したいという希望に受け取れます。掃除はあまりしなくても、バランスの良い食事がある、薬の管理と時々声をかけてもらえればかなりの方が自宅で生活できると思うのですが、水窪はマンパワーがないので配食サービスも週に1回しかありません。『男子厨房に入らず』と育ち、家事を行なったことがなく今後も進んでやる気がない介護度の低い方のために、安くて気楽に使えるケアハウスのようなグループホームのようなところがあるといいなと思います。ただ「集団生活は嫌だ」と言い張る方も想定できます。若い方にとっても決して他人事ではありません。自分のために家事ができるようにしておくこと、まめに動くことを普段から身につけるように身の回りの人には促しています。高齢者の自立支援だけではなくどの年齢も自立できるように今後も声をかけたいと思っています。家事は継続することが大変です。毎日毎日行なっている主婦の大変さを理解してほしいですね。

主婦も兼務のケアマネふたりでした。



## 利用者が主役

居宅介護支援事業所  
在宅サービスセンターみっかび

高木 かず子



三ヶ日町は浜松市北区の西に位置し、人口 15,755 人、65 歳以上の高齢人口 4,096 人、高齢化率 26% でみかんの栽培を中心に生活をされている地域です。私たちの事業所は三ヶ日福祉センター内にあり、地域住民の交流の場でもあるため、住民の方と触れ合う機会が多くなっています。介護保険の導入と同時期に立ち上げ、現在 5 人のケアマネが共に支えあいながら仕事に取り組んでいます。同センター内に通所介護、訪問入浴介護のサービス事業所があり、連携を取りながらサービスの調整に当たっています。

みかんの里の地で働かせて頂き 5 年目となりますが、みかんの栽培に携わる家庭が多いこともあり、みかんの開花、消毒、摘花、収穫と、その時々作業に合わせた訪問や家族への対応が、とても大切なこととわかるようになってきました。

利用者の立場や家族の要望の違いに直面し、ケアマネとしての力不足や人間としての未熟さを感じ、サービスの組み立てに躊躇したり、前に進む勇気が出なかつたりと、手探りのなかでの日々が続いていますが、ひとつ乗り越えるたびに、それが自分の財産となり、糧とすることができたら幸せなことだと思っています。

ケアマネとしての業務を行う中で、自分なりに心掛けていることは、利用者や家族にとって、「いい加減」ではなく「良い加減」を作り出していくことです。利用者の現実を知り、家族の思いを受け止め、サービスに結びつけるタイミングを見失わず、見守り、分かち合うことを忘れずにいたいと思っています。利用者が主役となって、いつまでも在宅での生活を送ることが出来るよう、自分自身の感性を磨き、おごらず、謙虚に、そして前向きに務めさせて頂きたいと思っています。

## 終末期患者と向き合う

坂の上ファミリークリニック  
訪問看護師 安富 由紀

当院では、在宅療養支援総合診療所として、どんな病状の方でも看取りまで責任を持ち、訪問診療・訪問看護を行っています。医師、看護師以外には、ヘルパー、事務も情報を共有し一体化した在宅医療と介護を目指しています。その様な当院への依頼は、「通院が大変でも自宅で安心して生活したい」、「看取りまでのサポートをして欲しい」等の理由が多いと思われます。

また、ケアマネジャーからの直接紹介、相談を受ける場合も少なくありません。もともとケアマネジャーが担当されている場合での依頼は、患者、家族との信頼関係をすでに築けており、何を当院に望むか既に把握されている事がほとんどで、ケアマネジメントの長期目標がほぼ想像、立案できている場合の多い事が特徴であると思います。

そして、患者の疾患はどちらかといえば、経過の長い慢性期疾患患者で介護保険での訪問看護の依頼が多いのも特徴です。このような場合、例えばそれが困難な事例であったとしても、介護保険申請中、認定の状況や家族背景、経済的背景をケアマネジャーが把握されているうえでの依頼のため、医療者側としても情報を早期から把握しやすく福祉用具一つとっても連絡、相談がわりとスムーズにとりやすいと感じます。

しかし、ここで述べたいのは当院が他にも、24時間体制で関わる《終末期》を在宅で過ごす患者の場合です。人生の最期を「畳の上で迎えたい」「住み慣れた家族のいる自宅で」と、願う患者と「それを現実にしたくない」「支えたい」と言う家族は決して少なくはありません。

しかし、現実には「自宅で最期を」と考えたもの、「介護申請とは」「ケアマネジャーとは」「介護保険で利用できるサービスとは」等と、初めてのことで情報もなくどうしたらよいのかと不安を抱く家族も多いものです。

そして、ただでさえ不安、混乱のある中で特にそういった終末期患者、悪性疾患患者にはさらに、点滴類や酸素機器類の医療依存度の高い症例が多く、家族も在宅でできる限りの医療をしてほしいと望まれる事がほとんどなのです。一言に終末期とはいえず、病状の進行は全く一様ではありません。介護する家族も思った以上にかかりの長期戦になる場合も、実際、決して少なくありません。こういった終末期患者は特に、医療依存度が高く急性憎悪の確率も圧倒的に高いため、たいてい頻回な医師や看護師の訪問が必然となってきます。

そんな中、私が訪問で常を感じる事は状態の悪化とは一体どうなるのか、やはり入院がよいのか、本当に自宅で看取れるのか、家族はよほど強い覚悟がない限り、いつも気持ちは揺れ動いているという事です。言い換えれば本人、家族は常に一番には安心感を求めていると言えるのではないのでしょうか。

そして、こういった終末期患者は当然、医療保険での訪問看護になりますが、医療であってもサービスプランの提供や、早急な担当者会議の開催をしてくださるケアマネジャーの方もみえます。

また、多忙な中、家族宅に頻回に連絡し予防的に早い段階で福祉用具を導入し、密に情報提供いただける場合もあります。こういった早期からの積極的な関わりが、何より先に述べた患者、家族の安心感に繋がっているのだと現場で感じることも多いです。

最後まで自宅で介護してもらおうことに、引け目を感じて過ごす患者や、介護に疲れきってしまう家族への《心のケア》は、決して医師や看護師だけでできるものではありません。時として、終末期の医療保険の訪問であるからと、当院からケアマネジャーへの一方通行な連絡になりかねない時もあります。

まずは、医療、介護関係なくお互いに顔の見える関係で、患者や家族の心理的な情報も常に交換していくことが、必要なサービスの提供に繋がっていくのではないのでしょうか。

今後、独居高齢者も増え、インフォーマルな資源も必要な症例も増えてきています。是非、活用できる色々な資源の情報も教えていただけたらと思います。

## 地域で取り組む緩和ケア

聖隷三方原病院  
浜松がんサポートセンター

「がん難民」という言葉を耳にすることが増えた昨今、緩和ケアが不十分なことにより患者さんやご家族の希望される所で安心して療養することが難しいというケースに直面されたことはありませんか？

ケアマネジャーの方々には「緩和ケア普及の為の地域プロジェクト」(OPTIM)が実施されていることをご存知でしょうか？初めて耳にされる方が多いかと思しますので、この機会に少し説明させていただきます。

### 《緩和ケア普及の為の地域プロジェクト》

(厚生労働科学研究 がん対策の為の戦略研究)

平成 19 年 4 月に施行されたがん対策基本法の中で、下記の 2 点が示されています。

#### 1. 早期からの緩和ケアの推進

がんの痛みをはじめさまざまな症状を和らげる治療(緩和ケア)が早期から行われること。

#### 2. 在宅ケア連携体制の確保

がん患者さんに在宅医療を提供する為の医療・福祉・介護の連携ネットワークの強化

このプロジェクトは上記を受け、地域のモデル作りを通じて、がんになったとしても安心して過ごせるプログラムを作成し、全国に普及させることを目的として計画されました。浜松市は地域モデル作りをしている全国4地区の一つ所に選定されています。具体的な取

り組みは以下の通りです。

#### 【地域の方々・がん患者さんとそのご家族向け】

- 緩和ケアに関する相談窓口を開設
- 緩和ケアについての冊子・リーフレットなどの配布
- 図書「緩和ケアを知るための 100 冊」の設置
- 緩和ケア・在宅ケアに関する講演会の開催
- 病院・施設・自宅、どこで療養していても主治医が緩和ケアの専門家と相談できる体制作り

#### 【医療福祉従事者の方々向け】

- 緩和ケアに関する共通の知識や技術が得られるハンドブック等の配布や、その使用法を含めた講習会の開催
- 医師・看護師・薬剤師。社会福祉士等医療福祉職者が、緩和ケアに関する問題を共に考え解決するための情報交換会の開催
- 緩和ケア専門家による出張緩和ケア研修の実施

在宅療養で重要な役割を果たすケアマネジャーの方々にこのプロジェクトへの関心を持ち、理解・協力頂くことはとても重要であると考えます。症例検討会や地域連携会議を実施する中で感じるのは、事業所や医療機関同士が互いの動きが見えていない状況にあること。患者さんに関わる人々が時間を共有し、まずは顔の見える関係になることで、問題解決へ向けてのネットワーク作りができればと考えています。全国 4 地域に与えられたソーシャルアクションの機会に是非ご協力お願い申し上げます。

【問い合わせ先】 浜松がんサポートセンター Tel.053-439-9047

## セミナー開催のご案内

### 厚生労働省推進事業

### 第 18 回在宅ケア懇談会・「認知症サポーター養成講座」 ご案内

現在、厚生労働省が推進している『認知症を知り地域をつくる 10 ヶ年』キャンペーン、認知症サポーター100万人キャラバン事業のご案内です。報告によれば、認知症患者は現在 180 万人ですが、超高齢化社会の到来を背景に、20 年後には 300 万人を超えるものと予想されます。「尊厳をもって最後まで自分らしくありたい。」これは誰もが望むことですが、この願いを阻み、深刻な社会問題となっているのが『認知症』です。在宅でも認知症の人が記憶障害や認知障害から不安に陥り周りの人との関係が損なわれ、家族が疲れ切って共倒れしてしまうことが少なからず見受けられます。認知症の人とその家族を支え、誰もが暮らしやすい地域社会をつくるための支援活動が、『認知症サポーター100万人キャラバン事業』です。受講者は講座修了証と厚生労働省認定オレンジリングがもらえます。

●日時：2008 年 12 月 13 日(土) 講座：14：00～16：45

●場所：なゆた・浜北 3F 大会議室

●受講：無料

【講座内容】全国キャラバン・メイト連絡協議会作成「認知症サポーター養成講座標準教本(認知症を学び地域で支えよう)」を用いた養成講座

【演題】 座長：浜北 RC・(医) 大法会遠江病院理事長 大城 一 先生

テーマ：『認知症の病態と治療』

講師：浜松医科大学医学部神経内科准教授 宮嶋 裕明 先生

【演題】 座長：JA 静岡厚生連 遠州病院名誉院長・

(医) 大法会 遠江病院顧問 鈴木 重世 先生

テーマ：『キャラバンメイトの紹介と地域づくり』

講師：認知症サポーター養成講師・パワー浜松 RC

奥山 恵理子 先生

●主催：浜北 RC・第 18 回在宅ケア懇談会実行委員会

●協力：パワー浜松 RC

●後援：浜松市・浜北医師会・浜松市社会福祉協議会・JA 静岡厚生連 遠州病院・(福) 大善福祉会・(福) 遠州秋葉会・(医)

大法会 遠江病院・静岡在宅ケア医療協議会・ケアマネットふじのくに・浜北区介護支援専門員連絡協議会・浜北 LC・浜松 RC・浜松西 RC・浜名湖 RC・浜松中 RC・浜北伎倍 RC・浜松ハーモニーRC（順不同）

\*LC：ライオンズクラブ RC：ロータリークラブ

★連絡先・お申込先

Tel. 053-588-1880 E-Mail: [oshiro-y@mx.mesh.ne.jp](mailto:oshiro-y@mx.mesh.ne.jp)

遠江病院内（内線 22）事務局担当：大城、宮本

〒434-0012 静岡県浜松市浜北区中瀬 3832-1

次号は平成 21 年 3 月に発行する予定です。  
投稿をご希望される方は記事、写真をお送りください。

—メモ—

## 第8回 静岡ディメンシア懇話会のご案内

静岡ディメンシア懇話会 代表 森 則夫  
浜松医科大学 精神神経科

今回はエスポワール出雲クリニック 高橋 幸男 先生と弘前大学東海林 幹夫 先生をお招きしてご講演いただきます。

●日時：平成20年11月22日（土） 16:30～19:00

●場所：アクトシティ浜松 コングレスセンター4 階 43 会議室

浜松市中区板屋町 111-1 Tel. 053-451-1111

商品紹介 アルツハイマー型認知症治療剤「アリセプト」

エーザイ株式会社

【一般演題】 座長：医療法人香流会 絺仁病院

精神科 星野 良一 先生

テーマ：『3年以上ドネペジルを使用した症例の治療効果と治療上の問題点』

浜松医科大学 精神神経科 井上 淳 先生

【特別講演 I】 座長：岡本クリニック 院長 岡本 典雄 先生

テーマ：『認知症高齢者のこころの世界』

エスポワール出雲クリニック 院長 高橋 幸男 先生

【特別講演 II】 座長：浜松医科大学 第一内科

准教授 宮嶋 裕明 先生

テーマ：『アルツハイマー病研究の最近の進歩』

弘前大学 脳神経内科学 教授 東海林 幹夫 先生

\*受付にて参加費500円を徴収させていただきます。

この会は日本医師会生涯教育講座の認定を受けております。

尚、会終了後に立食形式による意見交換会を予定しております。

●共催：静岡ディメンシア懇話会・エーザイ(株)・ファイザー(株)

●後援：浜松市医師会

「ケアマネの部屋」は浜松市のホームページに公開されています。  
ダウンロードして印刷できますので是非ご利用ください。

—検索手順—

【浜松市】で検索→[浜松市のホームページ](#)

生活インデックス



[暮らす／福祉](#)



[はままつ介護情報ネットワーク](#)



[事業所・ケアマネからのお知らせ](#)



[広報誌](#)

—編集後記—

介護・福祉の充実、地域連携の強化などを目的に発足した本会の活動を広く市民の皆様に周知してもらうべく「ケアマネの部屋」広報誌を浜松市のWebサイトに公開していただいております。

今後、ますます充実したものになりますよう、関係皆様のご理解とご協力をお願いします。

E-Mail : [hamamatu-kaigo-me@freeml.com](mailto:hamamatu-kaigo-me@freeml.com)

(広報委員会)